

刑法各論 I

科目ナンバリング CRL-201

選択必修 2単位

久保田 隆

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、殺人罪や窃盗罪、放火罪といった個別の犯罪類型の成立要件や、それらの犯罪の相互関係について学びます。春期の「刑法各論 I」では、主に、個人的法益に対する罪(財産犯を除く)、および、国家的法益に対する罪を扱います。

2. 授業の到達目標

- ①刑法各論の全体像を把握し、各犯罪類型を正確に位置づけることができる。
- ②各犯罪の成立要件と典型事例を学び、問題となる行為が何罪に当たるのかを理由とともに説明できる。
- ③各犯罪の区別に関する判例・学説を学び、限界事例を適切に処理できる。
- ④①～③を踏まえたうえで、特に時事問題の検討を通じて、社会を見る眼を養う。

3. 成績評価の方法および基準

【対面授業の場合】学期末試験(95%)および授業への貢献度(5%)によって評価します(授業への貢献度については、出席状況や授業態度、担当教員からの質問への応答などをもとに判断します)。
【オンライン授業の場合】学期末レポート(70%)およびリアクションペーパー(30%)によって評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

井田良＝佐藤拓磨 『刑法各論[第3版][新・論点講義シリーズ2]』 弘文堂
十河太朗＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱 『刑法各論判例50!』 有斐閣

参考文献

井田良 『入門刑法学・各論[第2版]』 有斐閣
井田良 『講義刑法学・各論[第2版]』 有斐閣
亀井源太郎＝小池信太郎＝佐藤拓磨＝数中悠＝和田俊憲 『刑法Ⅱ 各論』 日本評論社
西田典之＝橋爪隆(補訂) 『刑法各論[第7版]』 弘文堂
成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎(編) 『判例ブラクティス刑法Ⅱ 各論』 信山社
佐伯仁志＝橋爪隆(編) 『刑法判例百選Ⅱ[第8版]』 有斐閣

5. 準備学修の内容

毎回、授業の最後に翌週の授業の内容を予告しますので、上記「教科書」(『刑法各論[第3版][新・論点講義シリーズ2]』)の該当箇所を読んで予習してください。

さらに、授業後には、わからなかった点やもっと深く知りたいと思った点について、上記参考文献を使って復習するようにしてください。また、授業中に登場した重要な判例については、上記「教科書」(『刑法各論判例50!』)をはじめとする判例教材(「参考文献」掲載のものも含む)の該当箇所を目を通すと、より理解を深めることができます。

6. その他履修上の注意事項

- ・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」をすでに履修済み、または、並行して履修していることが望ましいです。
- ・授業では、毎回レジュメを配布します。
- ・六法を毎回必ず(!)持参してください(小型のもので構いません)。
- ・質問や相談は、授業後の休み時間に受け付けます(オンライン授業の場合は、リアクションペーパーに記載してください)。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | イントロダクション 刑法各論の全体像 春期の内容の概観 基本概念(保護法益など) |
| 【第2回】 | 生命・身体に対する罪① 概説 殺人罪 「人」の意義(堕胎罪 臓器移植法) |
| 【第3回】 | 生命・身体に対する罪② 自殺関与罪・同意殺人罪 殺人罪との区別 |
| 【第4回】 | 生命・身体に対する罪③ 概説 暴行罪と傷害罪 傷害致死罪 |
| 【第5回】 | 生命・身体に対する罪④ 過失致死傷罪 自動車運転死傷行為処罰法(「あおり運転」問題を含む) |
| 【第6回】 | 生命・身体に対する罪⑤ 生命・身体に対する危険犯(遺棄罪) 安楽死・尊厳死 生命・身体に対する罪の総括 |
| 【第7回】 | 自由に対する罪① 概説 脅迫罪 強要罪 逮捕・監禁罪 |
| 【第8回】 | 自由に対する罪② 略取・誘拐罪 人身売買の罪 |
| 【第9回】 | 自由に対する罪③ 強制わいせつ罪 強制性交等罪(近時の法改正をめぐる動向を含む) |
| 【第10回】 | 自由に対する罪④ 住居侵入罪 |
| 【第11回】 | 人格的法益に対する罪 信書開封罪 秘密漏示罪 名誉毀損罪 侮辱罪(SNSにおける誹謗中傷問題を含む) |
| 【第12回】 | 信用・業務に対する罪 信用毀損罪 業務妨害罪 |
| 【第13回】 | 国家的法益に対する罪① 概説 国家の作用に対する罪(公務執行妨害罪 司法作用に対する罪) |
| 【第14回】 | 国家的法益に対する罪② 国家の作用に対する罪(汚職の罪) 国家の存立に対する罪(内乱罪 外患に関する罪 国交に関する罪) |
| 【第15回】 | 【対面授業の場合】春期のまとめと期末試験／【オンライン授業の場合】期末レポートの講評 |